

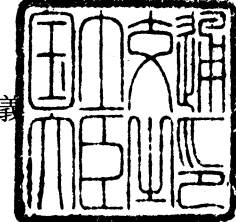


認定書

国住指第 2319 号
平成 20 年 11 月 18 日

吉野石膏株式会社
代表取締役社長 須藤 永一郎 様

国土交通大臣 金子 一義



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号及び同法施行令第 107 条第一号（柱：1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP060CN-0359
2. 認定をした構造方法等の名称
強化せっこうボード重被覆／鋼管柱
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

強化せっこうボード重被覆／鋼管柱

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
断面形状	ボックス型
寸 法	最大：W1846×L 1846×H (階高による) 最小：W376×L 376×H (階高による)

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
①荷重支持部材 (断面寸法)	<p>鋼管柱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 (1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする (1) 一般構造用角形鋼管 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3466 (STKR400, 490) (2) 一般構造用圧延鋼材 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3101 (SS400, 490) (3) 溶接構造用圧延鋼材 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3106 (SM400, 490) (4) 建築構造用圧延鋼材 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3136 (SN400, 490) (5) 一般構造用炭素鋼鋼管 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3444 (STK400, 490) (6) 建築構造用炭素鋼鋼管 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3475 (STKN400, 490) ・形状 角型 ・寸法 □-300×300×12の断面寸法以上
②被覆材 (上張材、下張材)	<p>強化せっこうボード (NM-8615)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS A 6901 ・形状 平板 ・表面の形状 平滑 ・端部の形状 (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1) スクエアー (2) テーパー (3) ベベル ・厚さ 12.5以上 ・寸法 下張材最小：337.5×455 下張材最大：1210×4500 上張材最小：363.5×455 上張材最大：1210×4500

2) 副構成材料

(寸法単位: mm)

項 目	申 請 構 造
①タッピンねじ	<ul style="list-style-type: none"> ・寸法 $\phi 3.5$以上×L22以上 ・間隔 200以下(縦方向) 1820以下(横方向)
②ステーブル	<ul style="list-style-type: none"> ・寸法 幅4以上×長さ22以上 ・間隔 200以下(縦方向) 400以下(横方向)
③柱隅部L型補強金物	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1) 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3302 (2) 電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3313 (3) 溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3314 (4) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3317 (5) 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3321 ・寸法 L-50×50×0.5の断面寸法以上
④下地処理剤(プライマー)	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 (1)～(8)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1) アクリル系樹脂 (2) 酢酸ビニル系樹脂 (3) ウレタン系樹脂 (4) エポキシ系樹脂 (5) ポリアミド系樹脂 (6) ポリサルファイド系樹脂 (7) シリコン系樹脂 (8) 合成ゴム系樹脂 ・塗布量 250g/m²以下
⑤建て入れ調整材	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 せっこう系接着剤 ・組成(質量%) <ul style="list-style-type: none"> 焼石膏 85～90 無機質混和材料(ハ⁺-ライト・ハ⁺-ミキュライト・炭酸カルシウム) 8～13 添加剤(粉末合成樹脂・硬化時間調整剤・防錆剤) 1～2 防カビ剤(ペンシイタリ⁺ル系化合物・有機沃素系化合物) ・厚さ 12.5～100 ・塗布量 3kg/m²以上 ・間隔 250以下
⑥接着剤(上張材取付け用)	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 (1)～(10)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1) 酢酸ビニル系樹脂 (2) アクリル系樹脂 (3) ウレタン系樹脂 (4) エポキシ系樹脂 (5) ポリアミド系樹脂 (6) ポリサルファイド系樹脂 (7) シリコン系樹脂 (8) 合成ゴム系樹脂 (9) せっこう系 (10) 炭酸カルシウム系 ・塗布量 200g/m²以下

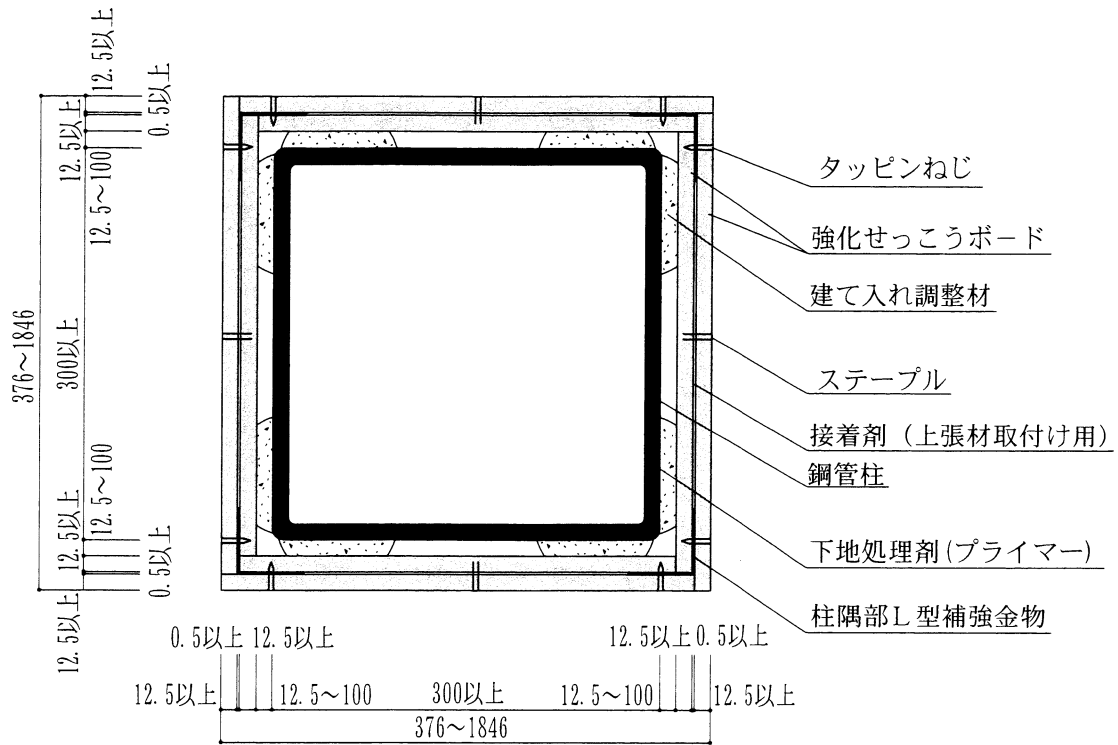
(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
⑦目地等充てん材	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1)炭酸カルシウム系 (2)せっこう系 (3)けい酸ソーダ系 ・塗布量 5g/m以上
⑧両面粘着テープ等 (柱隅部L型補強金物の下地組への仮留め用)	<ul style="list-style-type: none"> (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)粘着テープ又は両面粘着テープ <ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)～4)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1)アクリル系樹脂 2)ポリアミド系樹脂 3)天然ゴム系樹脂 4)合成ゴム系樹脂 ・厚さ 1.1以下 (2)接着剤 <ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)～8)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1)酢酸ビニル系樹脂 2)アクリル系樹脂 3)ウレタン系樹脂 4)エポキシ系樹脂 5)ポリアミド系樹脂 6)ポリサルファイド系樹脂 7)シリコーン系樹脂 8)合成ゴム系樹脂 (3)タッピンねじ <ul style="list-style-type: none"> ・寸法 $\phi 3.5$以上×L22以上 ・間隔 1820以下

4.構造説明図

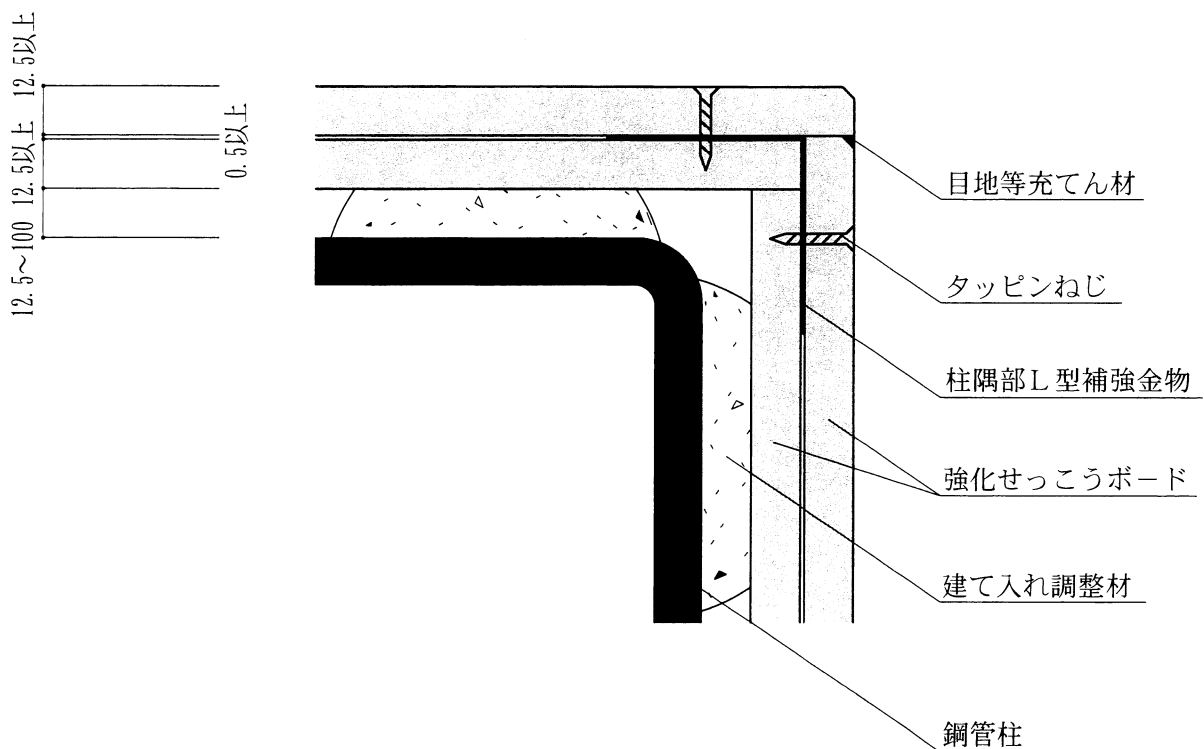
(寸法単位：mm)

(1) 水平断面図



(2) 詳細断面図

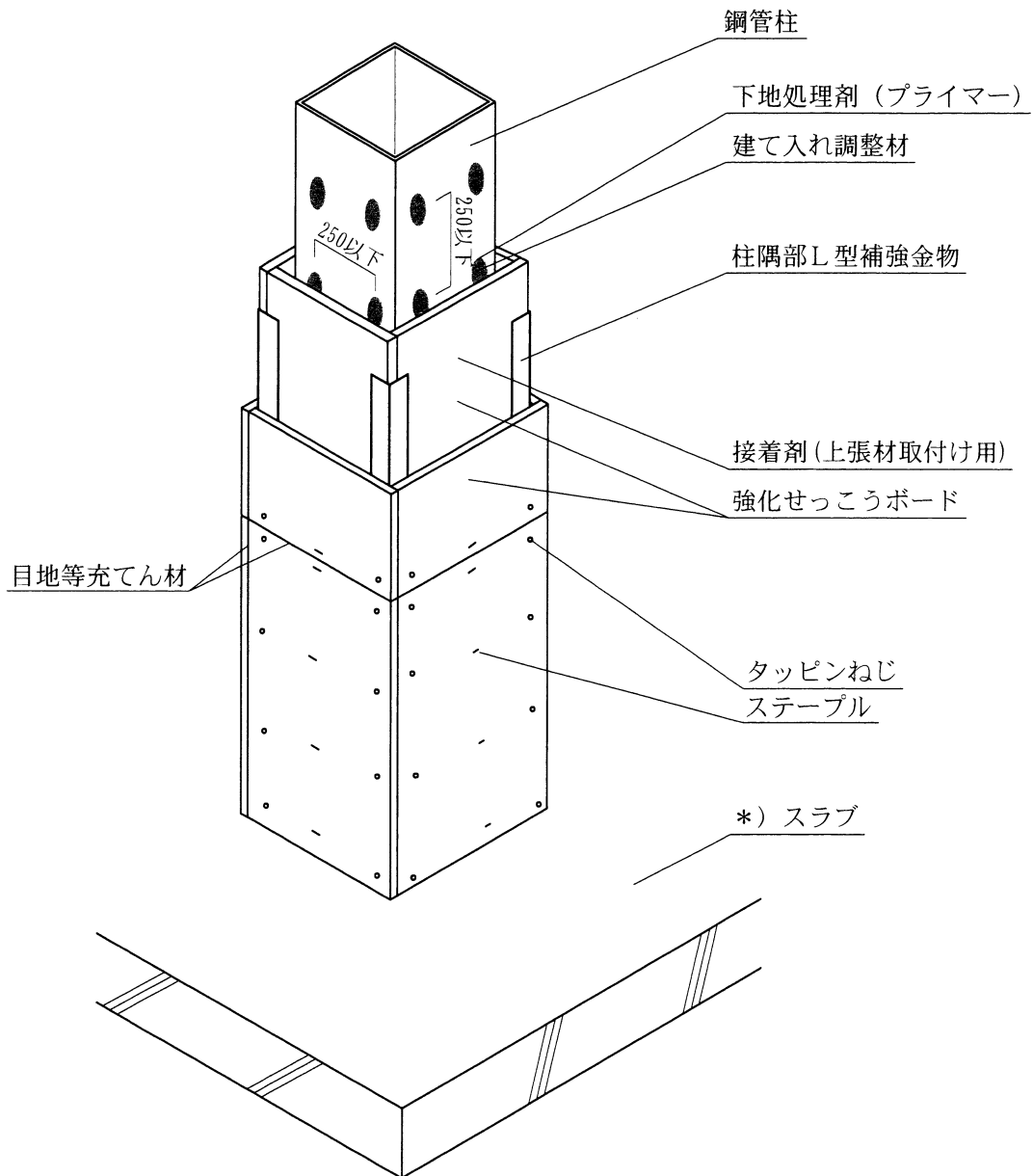
(強化せっこうボード隅部詳細水平断面図)



注) 寸法及び材料構成は2および3のとおり

(別添-4)

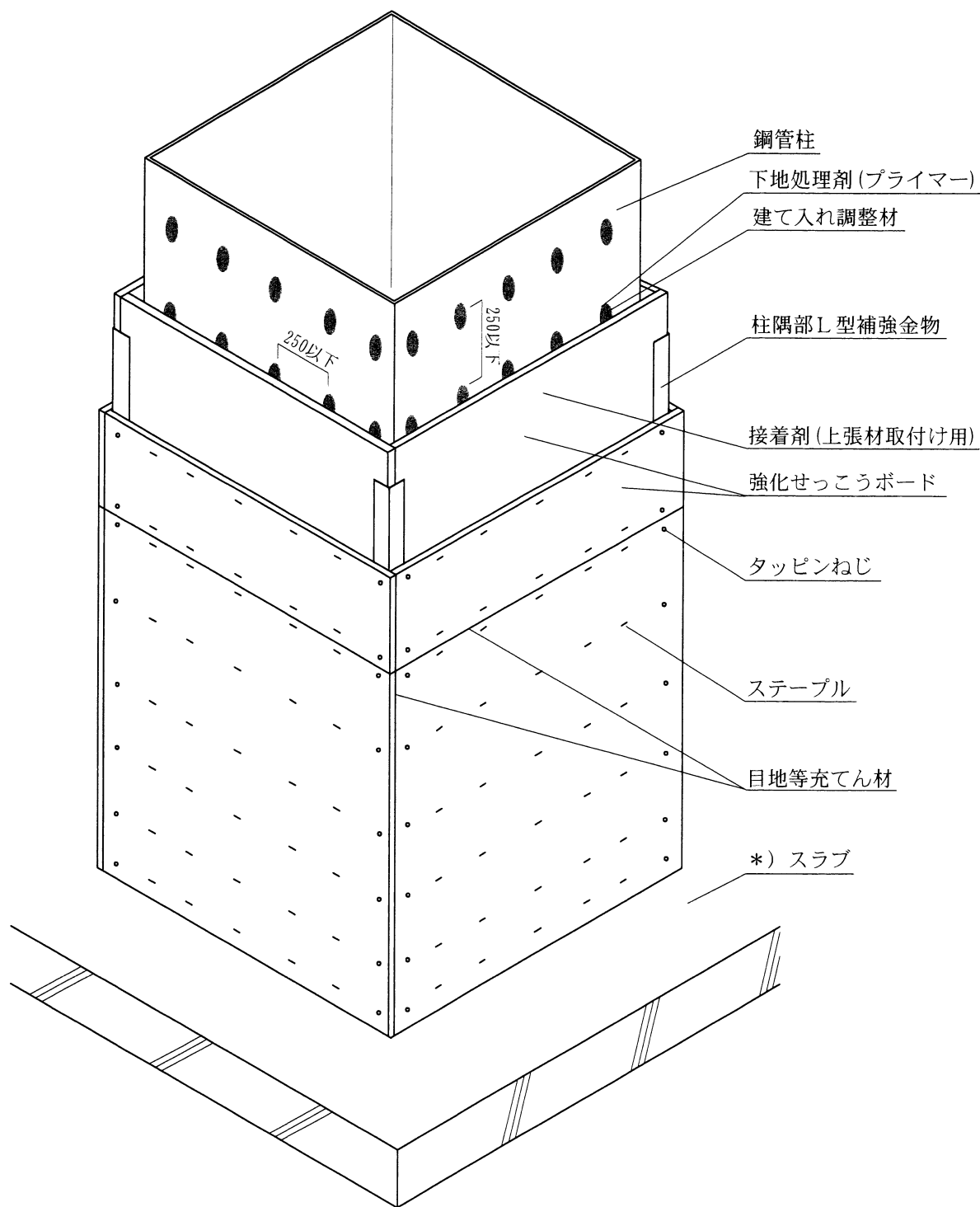
5. 施工方法等
＜施工図＞
小断面の場合



注) 寸法及び材料構成は2および3のとおり

*) 本評価内容に含まない

大断面の場合



注) 寸法及び材料構成は2および3のとおり

*) 本評価内容に含まない

<施工手順>

1) 鋼管柱への下地処理剤(プライマー)の塗布

- ・必要に応じて、鋼管柱表面へ下地処理剤(プライマー) (約250g/m²以下) を塗布する。

2) ボードの施工

①墨出し：

- ・現場施工図に合わせ、所定の位置に墨出しを行う。

②下地組み：

- ・下張強化せっこうボードを所定の寸法に切断し、建て入れ調整材 (約3kg/m²以上) を鋼管柱表面に点付けし、下張強化せっこうボードで下地組みをする。

③柱隅部L型補強金物の下地組への取付け：

- ・下地組み出隅部に、柱隅部L型補強金物を必要に応じて両面粘着テープ等を用いて仮留めする。

④上張り強化せっこうボードの取付け

- ・上張強化せっこうボードを所定の寸法に切断し、上張強化せっこうボードを下張強化せっこうボードの目地と一致しないように、柱隅部L型補強金物(出隅部)にはφ3.5mm以上×L22mm以上のタッピンねじで約200mm以下の間隔で留め付け、下張一般部には接着剤(約200g/m²以下)を併用して幅4mm以上×長さ22mm以上のステーブルで縦方向約200mm以下、横方向約400mm以下の間隔で留付ける。

⑤目地部の処理

- ・上張強化せっこうボードの目地部は、目地等充てん材にて平滑に仕上げる。